

共同組織の大飛躍と画期づくりを真っ正面に向き合って

組織社保部長 田中賢二

今年2月の第41回全日本民医連総会、9月の京都民医連第57回総会は、共同組織の今日的発展方向、担い手づくりや職員の参画を提起し、特に強調されたのは、共同組織の飛躍と画期づくりをすすめようと呼びかけたことです。これは、今を「激突する情勢」として位置づけ、「戦後民主主義」を否定する流れへの「緊急警報」です。特定秘密保護法をはじめ、集団的自衛権の行使容認、自己責任論を押し付ける地域包括ケアシステムと医療介護総合法、教育への政治介入、原発再稼働など民意を得ることなしに次々と人権を踏みしめる悪法等が強行採決されています。一方、国民生活は4月からの消費税増税、震災・福島復興支援の課題、生活保護法改悪、日本経済の歪みによる貧困と格差の拡がり、困窮の極みとなっています。このような困難な時だからこそ、私たちは地域住民と一緒に、国民の人権と命の大切さが尊重される社会にすることが一層求められています。私たちの願い実現は、国民世論と運動がどれだけ大きくなるかに関わっています。今の地域実態を地域住民と職員と一緒に学び、京都から“正す”運動づくりを始めましょう。

過去最高の共同組織活動交流集會を跳躍台に

9月の第12回全日本民医連共同組織活動交流集會は、過去最高の3,300名の共同組織会員と職員が集いました。全体会で藤末会長より「民医連が地域で信頼をかちとり、事業や規模を前進させることができた理由」を3点報告されました。1点目は「生活と労働の視点」「共同の営み」の医療観に立ち、医学・医療の進歩に学び、自ら後継者育成に取り組んできたこと。2点目は非営利原則に基づき、住民参加で保健、医療、介護事業を科学的で民主的な事業所管理と運営に努力をしてきたこと。3点目は、日本国憲法に依拠して社会保障制度を守り、発展させる運動を進め、政治活動にも積極的に取り組んできたこと、とまとめられています。これらはいずれも共同組織会員をはじめとする地域住民、諸団体と民医連事業所とが知恵と力を結集した結果であり、これからも不変的な民医連活動の基本です。参加された会員さんからは「山梨勤医協の倒産と再建の歩み」「共同組織の視点で60年の振り返り(大阪)」「石川での全県統一した組織づくり」などの報告に、「過去の経験を教訓とし、未来への展望を導き出すことが出来た」と感想が述べられていました。

なぜ今“画期”が求められるのか

「激変・激突」の情勢と位置づけています。これは前項でも述べていますが、戦争する国づくり、格差と貧困の拡がり、自己責任論による医療や介護難民の問題など「国民要求と政治との矛盾」が目まぐるしい速さで、大きな力でぶつかり合っていることを指摘しています。

私たちはあらゆる場面で学びあい、本質を見抜く目と力をつけることが必要です。民医連綱領の第一段落は「私たち民医連は無差別・平等の医療と福祉を実現する組織です」と定めています。これは民医連が何のために存在し、何を追及するのか、理念と目的を簡潔に表現したものです。職員は「民医連綱領に団結し、日本国憲法を物差し」にしています。そして「命を守る担い手」です。地域住民と共に平和と人権、憲法を守る活動を通じ「激突する力を押し返す」「民医連の理念」を拡げる活動が求められているのではないのでしょうか。その大きな力となるのがパートナーである共同組織・友の会員です。“時代をくぎる”ほど共同組織を飛躍させるのが「画期づくり」の具体化です。

一進一退から大飛躍に

この10年で、全日本民医連や京都民医連の共同組織構成数は103%に増加。保健会は99.6%です。2006年の26,839人・世帯をピークに減少し、2010年より僅かですが年1%の純増に転換しつつ

● 共同組織拡大強化月間 目標一覧

共同組織	会員	元気	班会等
京都市中・右京健康友の会	1,800	56	0
春日健康友の会	20	4	2
朱雀健康友の会	15	3	3
西京健康友の会	15	3	5
上京健康友の会	140	20	50
仁和健康友の会	16	2	2
吉祥院健康友の会	200	20	30
九条健康友の会	40	5	0
久世健康友の会	30	5	7
綾部健康友の会	200	20	10
舞鶴健康友の会	30	5	5
丹後健康友の会	30	5	5
福知山健康友の会	40	7	13
計	2,576	155	132